

次号予告

特集 金融・証券ビジネスとOR

- 金利派生商品の時価評価と評価システム ……白川正樹 (興銀第一フィナンシャルテクノロジー)
金融に変革をもたらす大規模シミュレーション ……鳥居秀行 (ニューメリカルテクノロジーズ)
リスクマネジメント高度化の基礎となる金利システムの開発 ……和合谷興志雄
クレジット・リスクとクレジット・デフォルト・スワップの評価モデル ……青沼君明 (東京三菱銀行)
金融業におけるデータマイニングの応用
—保険解約の防止分析— ……小野 潔 (ニッセイ基礎研究所)

編集後記

●昨年の4月から編集委員をさせていただいています。昨年は編集会議に参加しているだけだったのですが、今回特集を担当し、これまでの皆さんの御尽力が身にしみて分かりました。まずは先人の方々に脱帽。

●今回の特集は、「中堅・中小企業における戦略的情報化」です。中堅・中小企業を情報化という側面から応援する団体、研究機関と企業の方々に執筆をお願いしました。まさに、産官学一体となった特集になっているのではないかと思います。この場を借りて、筆者の方々の御協力にお礼を申し上げます。

●近頃、大企業が赤字連続の中で“ヤフー・ジャパンの株が6000万円まで高騰”という話題が世間を騒がせましたが、ヤフーという米国の会社も最初は従業員20人、売り上げ12億で2億円の赤字という中堅・中小企業だったそうです。近年の欧米の元気よきは、中堅・中小企業の元気から来ているような気がします。欧米、特に米国では中堅・中小企業、いわゆるベンチ

ャー企業の元気の良さが目につきます。今は巨大企業となったMicrosoft社も最初は中小企業だったことを考えれば、中堅・中小企業の活性化が日本の経済の活性化に繋がるのではないかと考えます。

●“鶏口となるも牛後となるなかれ”という諺がありますが、英語でも“It's better to be a big fish in a little pond than a little fish in a big pond.”と同義の諺があるようです。西暦も2000年を迎え、世の中の仕組みや制度が急速に変化をしている状況では、大企業よりもむしろ中堅・中小企業の方が時代に応じた商品やサービスを提供する上で有利なのかもしれません。新しいパラダイムを創出し、世界に通用するベンチャー企業が日本からもたくさん生まれてくることを期待したいものです。我々ORに携わる者も、新しいパラダイムに乗り遅れることなく、ベンチャー企業を応援できるよう日々精進していきたいものです。

(平山克己)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 田口 東(中央大学)

委員 北澤英理子(東京ガス株)、栗田 治(慶応義塾大学)、猿渡康文(筑波大学)、椎名孝之(財団法人電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、清水康司(青山学院大学)、田村明久(京都大学)、中川慶一郎(株NTTデータ)、原 裕淳(株東芝)、平山克己(住友金属システム開発株)、松村良平(東京工業大学)、宮崎知明(富士通株)、山下英明(東北大学)、吉野秀明(日本電信電話株)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成12年4月号 第45巻 第4号 通巻472号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 田口 東

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ